

令和4年度廿日市市公共交通協議会（第2回） 要点

日 時：令和4年8月10日（水）10時00分～11時30分

場 所：廿日市市市民活動センター 2階 第一研修室

委員総数：21名

出席委員数：18名（廿日市市公共交通協議会規約第8条第2項の規定による定足数を充足）

傍聴者数：0名

1 開会

2 協議

次期地域公共交通計画の基本的な方向性について

資料1～資料3について、事務局から説明

《質疑応答・意見》

A 委員：市自主運行バスについて、廿日市地域や大野地域と比べて、佐伯地域は赤字の幅が大きいと思うが、様々な施策を行っていただき、ありがたいと思っている。市自主運行バスがなくなると生活が難しくなるため、利用していくことも必要だと考えている。これからも、佐伯地域への施策も検討していただきたい。資料2の2ページの免許返納者数のグラフにおいて、どの年度も廿日市市全体では70歳以上の返納者が多くなっている。地域別のデータがあれば、佐伯地域の返納者数は非常に少なくなると思う。公共交通の便数が少なく、免許を返納することをためらう方もいる。公共交通を充実させてほしい。

事務局：現時点では廿日市市全体の返納者数となっている。地域別のデータについては廿日市警察署に確認の上、あらためて回答させていただく。

会長：運転免許返納者を対象とした支援制度がある。その制度を利用した方のデータから、地域別のおおよその免許返納者数は把握できるかもしれない。

資料4について、事務局から説明

《質疑応答・意見》

質疑・意見無し

資料5について、事務局から説明

《質疑応答・意見》

B 委員：資料5の2ページであるが、令和2年以降はコロナ禍の影響により宮内串戸駅の利用者数は減少していると思うが、令和元年度まで運行していた快速列車が運行しなくなった影響もあるのではないかと推測している。

事務局：宮内串戸駅の利用者数は、コロナの影響だけでなく、快速が止まらなくなった影響もあるのではないかと推測している。

B 委員：難しいと思うが、個人的には宮内串戸駅から佐伯方面や宮園・四季が丘方面からの利用者が多いと思うため、快速列車を復活させてほしい。

事務局： 年に1回、県が主催して各市町とJR西日本で協議する場があるので、その場を活用してご提案頂いた内容について声を届けていきたい。

C 委員： 資料5の7ページであるが、昨年度から自家用有償旅客運送で移動手段を確保し、以前に比べれば利用者数は増加している。持続可能な移動手段とするため、運転手確保が課題となっているが、昨年度4月時点で6名の運転手を確保した。今年3月に国土交通大臣認定講習を受講し、新たに2名の運転手を確保した。このうち1名は40代女性の方である。今後とも市から運行補助金など、引き続き支援をお願いしたい。

事務局： ほっと吉和に運行を担っていただき、1,649人の利用があった。令和3年度から地域が主体となってきめ細やかに対応していただいている成果だと考えており、今後ともよろしくをお願いしたい。

資料6について、事務局から説明

《質疑応答・意見》

D 委員： 新しい公共交通計画の策定において、今回の協議資料の現状と課題の分析等であるように、利用者数が減少していくなかで、持続可能な公共交通にしていくなめにはどうすべきか、皆さんで相当考えなければならない。資料1・6の中で、今後のキーワードとなる「リ・デザイン」の内容を入れていただいている。新規需要を掘り起こすこと、例えば自家用車を使っている方から公共交通への転換等を本気で考える必要がある。県の検討会議で、通勤時に自家用車の利用が多く、比較的大きな事業者を対象として、公共交通利用へ転換を促す方法を議論した。例えば、広島工業大学では五日市駅～大学間のスクールバスを運行し、渋滞緩和等の地域貢献にもつなげている。駅と企業を結ぶバスだけでは地域住民は利用できないため、並行して運行する路線バスを活用できれば、企業の方と地域住民の双方の方が利用することができる。こうなれば、今までとは少し違う取り組みで新しい公共交通の需要が創出できると考えており、これは廿日市市内でもできるところがあると思う。新規需要の掘り起こし、自家用車の利用からの転換を大きな柱として新たな計画に位置付けてほしい。

交通事業者相互の共創に関連して、宮島口のフェリーにおいて、各航路でそれぞれ切符が違うのは解消してほしい。共通切符で利用できれば、わかりやすくなり、観光利用増にもつながる。これも国の制度としてできるようになっているため、活用してほしい。

決済手段で、PASPYが今後続くかどうか分からない中、タッチ式のクレジットカード等で運賃収受できるようになっている。市が単独ではなく近隣市町や国・県を巻き込んで、新たな使いやすい決済手段についても検討してほしい。

事務局： 1点目について、利用促進は重要だと考えており、新たな需要の掘り起こしの重要性も認識している。言葉としては入っていないが、方向性3を検討していくなかで、念頭において策定作業を進めていきたい。2点目の共創については、対象となる企業等も含め、協議しながら検討を進めていきたい。3点目のデジタル化については、本計画の策定において、DX推進を考える必要があると考えている。どこまでできるかわからないが、提案内容を踏まえて検討したい。

A 委員： 公共交通はこれ以上不便になったら誰も使わない。運行サービスを上げれば経費がかかる。現状は便数が少ないから利用していないと思う。資料6の7ページ

であるが、吉和地域において、他分野との連携による新たなサービスとは何か。物品の輸送などを想定しているのか、具体的に教えていただきたい。

事務局： 1点目の便数を増やすと経費がかかり、サービスを下げると不便になることについて、移動内容・行先を分析することが最適化・効率化の近道だと考えている。アンケート調査や乗降調査のデータを分析して、費用対効果を踏まえながら、最適化を図りたい。2点目の資料6の記載内容については、利用者が少ない時間帯に、野菜や貨物を運ぶようなサービスの可能性を検討している。

会長： 開会前に事務連絡があった通り、本日いただいた発言以外でご意見等があれば、期間は短いが8月19日までに事務局の方へ送付していただきたい。いただいた意見は、可能なかぎり計画へ反映させたいと思っている。

3 閉会